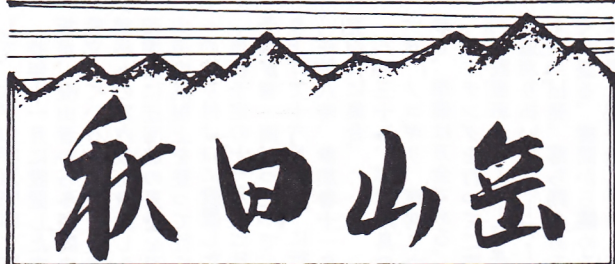


2013



平成 25 年 2 月 発行

No. 89

公益社団法人 日本山岳会秋田支部

秋田市千秋久保田町
2 番 23 号 佐々木方

TEL・FAX 018(833)2525

発行者 佐々木 民 秀

編集者 鈴 木 裕 子

泉 裕一 氏 追悼

泉 裕一 さんを偲ぶ

支部長 佐々木 民 秀

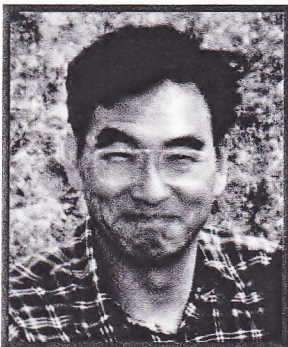
泉裕一さんが逝って早くも二年が過ぎようとしている。

学識高く、温厚で、人当たりの良い泉さんは、秋田県庁を定年退職後、第二の職場として自然環境調査会社に再就職され、これから第二の人生を楽しもうとしていた矢先に突如病魔に襲われ、僅か半年程で、入院先の秋田赤十字病院で薬石効なく逝ってしまった。(平成二十三年六月二十七日享年六十三才)

専門分野の野鳥を始め、自然環境関連に精通していた泉さんは、今後の秋田支部の公益的事業運営に大きな期待を寄せていただけに、そのあまりにも早い逝去に愕然としてしまった。

泉さんとの初対面は、泉さんが自然保護課に所属していた昭和五十年後半頃だったと思う。

当時、太平山県立自然公園整備促進地域協議会の要員として、登山道や施設の整備等を一手に引き受けていた小生は、自然保護の観点から種々のアドバイスを受けつつ、その整備促進に大きな尽力を頂いてきた経緯があり、県立自然公園管理員時代も含め、公私共に大変お世話になった。改めて感謝を



申し上げたい。

泉さんとの思い出は数々あるが、特に印象に残っている事は、昭和六十三年八月に、まだ県で未調査地であった倉沢山(焼山の南)の湿原を案内し、強烈なヤブを漕ぎ、新種を求めて植生を調査した事や、平成七年十一月に、太平山で初めて天然記念物のクマゲラが畠山秀雄さんによって発見・撮影された時、その鑑定をしていただき、当時、新聞・テレビ等で大々的に報道された事等がある。

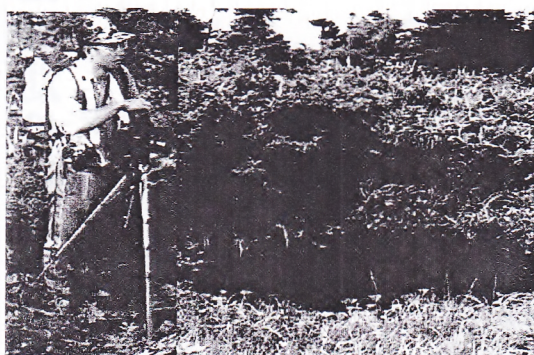
昭和六十三年七月に日本山岳会秋田支部に入会(一〇三三〇)され、最近では、

県内の標高百メートル以下に茂る太いブナ林が残されている場所等を紹介して頂いたり、平成二十一年六月には、秋田支部との共催で開催された自然保護全国集会秋田大会での基調講演(演題「ブナは残ったか」)を快く引き受けてくださり、大会は成功裡に終えることが出来、支部の歴史に一頁を加えていただいた。

ここに、生前でのご交情に感謝申し上げ、泉さんのプロフィールを紹介し、心からご冥福をお祈り致します。

秋田大学時代から鳥類生態学を学び、特にクマゲラ生態研究の実力者、権威者として、昭和五十年森吉山中での生存を確認し、その後、同地で繁殖を確認、初めて本州での留鳥を証明する。その後、森吉山のブナ原生林の保護を図ったことにより、クマゲラの生息地として三百ヘクタール程を「鳥獣保護区特別保護地区」として指定されている。

昭和五十八年二月から、白神山地のブナ林保護調査にかかわり、ここでもクマゲラの営巣を確認するなど、白神山地のブナ林の保護運動に大きな影響力を与え、後の「自然環境保全地域」「森林生態系保護地域」「鳥獣保護区」「世界遺産地域」等の指定に大きく貢献している。



倉沢湿原を調査する泉さん

太平山前岳に案内板を設置

堀井 弘

秋田支部では、公益的事業の一つとして、太平山歩道整備を行っている。

昨年十一月に設置した中岳への案内板が、登山者から冬期間の登山に大変役立っているとの好評なので、本年は、前岳への案内板を設置した。前岳へは積雪期に迂回路の夏道を通らず、旧登山道の尾根上を登って行くので、尾根への取り付け口に設置した。

当初予定の十一月十七日(土)は、天候予報が雪・雨だったので、急遽一日繰り上げて十六日(金)に行った。

午前八時、参加者十一名が二手ノ又登山口に集合。

八時三十分、作業用具の草刈り機、ナタ、ノコギリ、草刈りカマを各自持ち、準備は万全である。

ミーティングを行って二班に分け、案内板設置班(リーダー堀井)、中岳周辺歩道刈り払い班(リーダー安藤)とし、八時半出発。落ち葉のある山道をゆつくり登る。樹間から眺める紅葉最後の広葉樹と深い緑色の松と杉が対照的で、遠方の山並みも美しい。途中、自然観察を取り入れ、黄葉したクロモジ、輝きの葉をしたイワウチワ、春を待ち固い蕾のカタクリ、ヒメシヤガ等が印象的であった。

夏山と違い汗もかかず、全員元気でハイペースであった。一時間程で女人堂に到着。女人堂の祠は雪囲いがされていた。

太平山は、秋田市内の登山愛好者の

ホームグラウンドで、前岳手前の神仙山神社(女人堂)までのコースに人気がある。前岳は、女人堂から尾根筋を十分位進んだ北側へ巻く道の右手側にあるピークで、知っている人は以外に少ない。大半の人は女人堂を前岳と思っているらしい。

ここから、前岳の案内板設置の目的地に到着し、案内板を設置した。

積雪期の登山者に役立つと思うと張り合いもあり、作業もはかどった。

設置後、刈り払い班に合流するため中岳に向かう。



案内板設置作業

太平山中岳周辺を刈り払う

安藤 金 栄

待ちに待った刈り払いが、天候不順のため急遽十一月十六日(金)に実施された。平日にもかかわらず、総勢十一名が二手ノ又登山口駐車場に集結した。久々に会う顔、交わす言葉、まだまだ日本の元氣(?)を感じる。

どんよりとした天候の中出発するが、初冬の冷気はひしひしと肌に凍みてくる。黙々と山道を進むが、心臓はドキドキ、足はやけに重い。普段の運度不足を実感するのはいつもこの時点だ。時折すっきり葉を落としたブナの本立から、セピア色の下界の様子が窺える。遠くに目をやると、黒褐色の山肌にグラニュー糖をまぶしたように、薄らと雪を被った大きなドーム状の中岳がくっきりと見える。よし、いくぞ、ようやく元氣も出てきた。

前岳頂上付近の歩道は落ち葉に埋もれ、ふかふかの絨毯のよう。昨年設置された中岳への案内板もしっかりと設置されており、登山者からお陰様でありがとうの感謝の言葉をいただく。

いよいよ中岳到着。“さあ刈るぞ”

田んぼの草刈りと違い、急登の登山道の笹や雑木、石交じりでなかなか困難を極める。奥岳が望める展望地の周辺がすっかり刈り払われ明るくなった。心地よい汗を流し、作業も一段落、展望のよい高見からの昼食は実においしい。小雪が舞ってきた。曇天の中を草刈り機を動かしながらの下山は滑

り坂に足をとられ、無機的にギョングヨンと回る草刈り機は大きな石に当たって、勝てそうにもない太い木に突き刺ささり、重心不安定な私を突然襲ってくるので四苦八苦。

日常の喧騒から逃れ、心身共にリフレッシュするため、もっとたくさんの人々に四季折々の太平山を楽しんでほしいと思うので、毎年、この作業は続けて行きたいと思っている。



参加者 佐々木(民) 福田光 柳田

鈴木(裕) 堀井 鎌田 佐藤(博)

石川 伊藤(秀) 安藤(金)

会員外 畠山

年次晩餐会開催

十二月一日午後六時から、東京品川ホテル アネックスタワー5階で開催。約四三〇名出席。

晩餐会開催に先立ち、講演会や図書交換会等が行われた。講演会は秩父宮賞を受賞した小泉弘氏、女性最高齢でチョモランマに登頂した渡邊玉枝氏、学生部のインド・ザンスカール登頂遠征隊等の講演であった。また、久々に関東在住の秋田支部会員や旧知の会員との交流も出来、有意義な会であった。

秋田支部出席者

佐々木民秀 今野昌雄 鈴木裕子
佐藤博 佐々木長秀 大船武彦
川島由夫

愛鷹連峰「越前岳」晩餐会懇親山行

佐々木悦子

晩餐会の翌日(十二月二日)、集合場所のある品川駅南口に向かう。構内は大変広かったが、集委會員の皆さんの誘導のお陰で集合の十分前には到着できた。

今回の参加者は一五名。二台のバスに分乗して、七時四十分に出発。東名高速・裾野インターを経由し、一路、十里木登山口をめざす。バスの中では、リーダーのキビキビとした説明と、「地図・越前岳の歴史・山行記念タオル」などの配布があり、「さすがJACの山行は違う」と感銘する。

私達のバスに、途中から乗り込んだ



2012/12/01

本会の会長さんと、下河辺集委會長さんからご挨拶があった。特に、足柄付近を通るころ、下河辺さんが「富士山を覆う雲を皆の息で吹き飛ばそう」と話されると、その言葉どおり絶妙のタイミングで、突然に富士山が目に見え、私達のバス二台車の全員から拍手が沸き起こった。

九時五十分、登山口到着。静岡支部の皆さんから、甘いミカンと美味しい名水を頂く。「大集合写真」の撮影があり、十時二十分、元気に朝の一步を踏み出した。

標準歩程は、登り二時間、下り一時間とか。越前岳へのコースのなかでも最短のコース。ここを往復する計画である。

ススキが一面に生えた急な斜面をゆつくり登る。展望台を過ぎると傾斜が少し緩やかになり、そこがベンチのある「馬の背」である。

すぐに樹林帯の中に入り、展望はほとんどきかなくなる。ナラ・ブナ・ヒノキ・ヒメシヤラなど、多様な樹木が生えていた。

「勢子辻」への分岐を通過すると、まもなく頂上であった。十二時二十分着。越前岳(一五〇四M)は、富士山の南側にある愛鷹連峰の最高峰である。北に見えるはずの富士山や南アルプスは、残念ながら今日は見えない。しかし南には、遠く霞んだ駿河湾をみることもできた。

越前岳の標柱の前で、秋田支部の参加者で記念写真。夫(長秀)は、尾上会長と腕を組んで、ちゃっかりとツーショット。頂上から東に下ると愛鷹山荘へと続く古くからのコースとなる。

頂上近くで座り心地の良さそうな木の枝を見つけ、暖かいダウンを着込み、温かいスープを飲みながら急いで昼食をとる。十二時四十五分、下山開始。

足元では、立派な霜柱がまだ残っていて、枯れ葉を持ち上げていた。また、かつての登山道が雨などで流され、それを避けて通るため、いくつもの踏み跡ができています。登山道と自然保護について、考えなければならぬ課題である。

十三時三十分、「馬の背」着。ここでも、やはり富士山は麓近くまで雲に覆

われ見ることが出来ない。佐々木支部長から、以前に撮影したパノラマ写真を見せていただき、ここからの富士山の姿を想像して見ることにした。

登山口近くまで来ると、パラパラと冷たい雨が降り出した。静岡支部の「出店」で資料を頂き、記念に「富士山絵地図」を購入。「来年の支部懇談会(十月二十日・二十一日・静岡)」へ是非ご参加下さい」とのことであった。十四時、十里木登山口に下山した。

バスの中で来るときは、岩手の方から「早池峰」のお話を伺い、帰りには岐阜の方とお話をし、JACの会員ならではの、有意義な時を過ごすことが出来たと思う。十七時四十分品川駅着。



越前岳山頂

夫婦会員として入会して五年、本会の山行に参加したのは初めてであった。集会委員会の皆さんのニコニコとした笑顔は、バスの中で見た富士山と共に、私の心の中に焼き付いている素晴らしい思い出である。

秋田支部参加者

佐々木民秀 今野昌雄 鈴木裕子
佐藤博 佐々木長秀 佐々木悦子

支部長会議報告

十二月一日、晚餐会に先立ち、午前十時三十分から、品川プリンスホテルアネックスタワー5F会議室で開催。
佐々木支部長出席。

高原理事の司会進行で始まり、尾上会長から全国支部懇談会のお礼、若年層会員の増、ユースクラブを立ち上げ一千万円の予算化を行う等を含む挨拶があった。

西村副会長からは、第十四回秩父宮賞は山岳書籍デザインの小泉弘氏、名誉会員は見送り等の報告があった。また、小林理事からは会員の増による入会金の増加、山研利用の増加、寄附金の増（十七件千五百万程）等の説明があった。他に、委員会の改革、統廃合について「法人運営適正化PT」を「公益法人運営委員会」に、「インターネット委員会」を「デジタルメディア委員会」とすることや「YOUTHTHCLUB」の新設が説明された。

その他、二十五年度の行事予定等、山岳保険、登山教室、森づくり、山行の多様化等について報告があった。
尚、秋田支部は、交付金・助成金の

公益・共益の配分の分割率の変更を要望した。

事務局担当者会議報告

一月二十六日、市ヶ谷・本会会議室、二十七日、四谷プラザ・Fで開催。
鈴木（裕）事務局長出席

二十六日午後一時から開催。高原理事の司会で進行。吉永副会長の挨拶で始められた。

始めに、委員会問題の改善策として、組織対策、人的強化、委員会の新設統廃合、活動の広報について説明があり、会の組織図も示された。特に、委員資格「入会二年経過」を撤廃。（新入会員もすぐ委員になれる）

続いて、支部長会議時の資料に基づき、各支部の要望、問題について、各支部とも活動会員の固定化、高齢化、会員の若返り、また、交付金・助成金の配分についての説明があった。次に、先に行われた「旅行業法に関する勉強会の纏めや、環境省 東北海岸トレイル（仮称）路線」等の検討業務に節田理事が出席し、青森、岩手、宮城、福島各支部に協力依頼があるかも知れないとの事だった。

公益法人としての初の決算報告である二十四年度決算について「会計処理の手引き」を中心に作成の指導があった。公益目的事業の事業を行い、領収書及び源泉徴収書の添付、寄付を受けた場合の非課税措置と各種助成金の有る支部については、本会との密接な連絡を取りながら作成してほしいとのことであった。

各支部の二十五年度の事業について報告が求められ、秋田支部は身の丈に合った活動を行うと報告したが、会員増に努力して欲しいと要望された。（北海道から埼玉支部までの報告）

四時三十分から、神崎日本山岳協会会長の「日本の山岳界」についての特別講演があった。日本山岳会設立当時のこと、日本山岳協会、日本勤労者山岳協会、都岳連、ハットJとの関係についての講演。（六時から懇親会）

二十七日、午前九時から、二十五年度事業の各支部からの報告。（千葉支部から宮崎支部まで）

続いて節田理事から、日本山岳会選定三百名山ガイドブックの出版事業についての説明があった。秋田支部担当は七座。山梨支部や信濃支部等三〇座を超える支部は首都圏の会員に依頼する等の案も提起された。

その他、全国支部懇談会のアンケートの集計、山岳保険、山のネットワーク東京会議の報告書等が配布された。事務連絡は、会員の異動については事務局への報告を必ず行うよう、公益社団法人として各種様式が変更になっている、退会届は本人が提出するよう等の連絡があり、午後三時に終了した。

行事予定は次の通り

・青森支部設立二十周年記念式典兼東北・北海道地区集会 青森支部主管
十月十二日（土）十三日（日）
・第二十九回全国支部懇談会

十月二十日（日）二十一日（月）
・全国自然保護集会 富山支部共催
七月六日（土）七日（日）

会務報告

◎役員会開催

二月二十三日、午前十時から県民会館（ジョイナス）研修室で開催。

二十五年度総会に提出する議題・案件等について協議。「三百名山登山ガイド」出版事業計画、旅行業法による募集登山の問題等について話し合いが行われた。

出席者 佐々木（民） 鈴木（要）

今野（昌） 鈴木（裕） 福田 堀井
佐藤（博） 石川 柴田 安藤（金）
高橋（忠） 大山（健）

計 報

伊藤秀雄氏

急病により、平成二十四年十二月三日逝去（享年八十才）

杉山雄幸氏

病氣療養中のところ、平成二十四年十二月二十三日逝去（享年六十二才）

謹んでお悔やみ申し上げます
支部からは、弔辞、弔電、弔花をお供え致しました。

伊藤氏、杉山氏は当会の委員として支部運営にご尽力いただきました事に深く感謝申し上げます。